

# 両沼地方農業技術情報

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所、JA会津みどり、会津坂下町、湯川村、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町

今年4月1日から食品に含まれる放射性セシウムの基準値が100ベクレル/kg以下に引き下げられたことに伴い、放射能検査の精度が上がり微量でも検出されるようになりました。風評被害を克服するためにも、両沼地方から出荷される全ての農畜産物から放射性セシウムが検出されないことを目指し、吸収抑制対策に万全を期しましょう。

## 【放射能対策のポイント】

高レベルの放射性物質をほ場に持ち込まない！

- ・堆肥や土壌改良資材・培土は、放射性セシウム濃度が、暫定許容値(400ベクレル/kg)以下のものを使用しましょう。

土壌中の放射性物質濃度を薄める！

- ・ほ場を耕耘する際は、出来るだけ深く耕して、土壌中の放射性物質の濃度を薄めましょう。

放射性物質を作物に吸わせない！

- ・カリ肥料を適正に施用して、放射性セシウムの吸収を抑えましょう。
- ・土壌pHを6~6.5に調整しましょう。

## 作物共通

堆肥は400ベクレル/kg以下であることを確認して使用してください。

### 1 基本技術である「土づくり」の徹底 堆肥の施用

肥沃な土壌では、放射性物質の作物への移行が少ないとの調査結果が出ています。地域内で生産される堆肥を有効に活用しましょう。

#### できるかぎりの深耕（果樹を除く）

作土深を確保し、根張りを良くするためにも、作付前にできるかぎりの深耕をしましょう。例えば、耕耘作業時にトラクタのギアを一段下げるなどして作業速度を落とし、少しでも深く耕耘するようにしましょう。

#### ゼオライトの施用

ゼオライトを100~300kg/10a施用することにより、土壌中の放射性セシウムを吸着させ、作物への吸収を抑制する効果が期待できます。なお、適正な施用量は土質によっても異なります(砂質土壌では多めに施すなど)。

## 2 古いべたがけ資材の使用は慎重に！

昨年の原発事故時に、ほ場で使用していたり、屋外で保管していた「べたがけ資材、トンネルビニル、マルチ等」を使用すると、放射性セシウムが作物に付着する恐れがありますので使用しないでください。

## 用水管理

これまでの用水等の調査では、河川・ため池等の水からは放射性物質が検出されていませんが、底土、落葉層にはある程度放射性物質が含まれていることが確認されています。できるだけ水路や農地に土砂や落ち葉が流入しないように努めてください。

### 1 ため池の取水について

上水を取水するように管理してください。

降雨(洪水)により濁り水が出た場合は、取水を最小限とするようにしてください。

水深1m以下の水位では取水しないように努めてください。

底樋より、直接取水している場合は、下流部に沈砂地等を設け上水を流すように努めてください。

### 2 頭首工の取水について

頭首口の土砂が多い場合は、掘上げてください。大規模な土砂の除去を行う場合、土砂の処分方法は町村関係課にご相談ください。

取水口の前に仮堰(土嚢等)を設け、極力河川から土砂を流入させないように留意してください。

### 3 揚水機場の取水について

揚水ポンプへの土砂の吸い込みを最小限とするよう、取水口の土砂を排除してください。

取水桝の前に仮堰(土嚢等)を設け、極力取水桝への土砂流入を避けるようにしてください。

### 4 水路の管理について

分水桝の土砂をこまめに排除したり、取水口の前に簡易な土砂溜(肥料袋等)を設け、水田に土砂が流入しないよう留意してください。

山腹や山林間を流れる水路などでは、落ち葉が水路に入らないようにしたり、撤去した土砂が再び水路に入らないようにしてください。

水路や土砂溜まりから掘り上げた土砂等は、農地に入れたり、再び水路に入ったりしないように努めてください。

## 水 稲

平成24年産米を有利に販売するため、両沼地方の全ての米が放射性セシウム「不検出」となることを目指します。カリ肥料を基準に従い施肥するとともに、十分な吸収抑制対策を行ってください。

### 1 カリの施用

稲の放射性セシウム吸収抑制対策として、カリ成分合計で10 a 当たり10kg以上の施肥を必ず行ってください。

#### (10 a 当たりの基肥施用例)

肥料名	施用量 (kg)	窒素 (kg)	リン酸 (kg)	カリ (kg)	備考
会津エコ米専用一発	4.0	6.0	3.2	3.2	
ケイカリン	4.0		4.8	4.8	
けい酸加里	1.0			2.0	
合 計		6.0	8.0	10.0	

用水がため池等の天水利用の場合や、例年カリ肥料の施用量が少なかった方には、通常より5割増し以上のカリ肥料追加をお願いします。

### 【福島県における玄米の緊急調査結果（平成23年）より】

- 1 暫定基準値を超えた水田ではカリ肥料の施用量が少なかったため、土壤中のカリウム濃度が低く放射性セシウムが根から吸収されやすかった。
- 2 山間部の狭隘な水田は、耕うんが浅く、常時湛水状態のため、根張りが浅いことから、土壤表層に多く留まった放射性セシウムを吸収しやすい状態にあった。

## 2 倒伏させない稲作り

稲穂が土に付かないようにするため、地力に応じた基肥量や生育量に応じた追肥量とするなど、倒伏しない稲体づくりに努めましょう。

# 野菜

## 1 適正施肥の励行

カリの増肥は野菜等でもセシウム吸収抑制効果が見込まれます。カリ施肥は通常の作物ごとの施肥基準に従いますが、例年カリ肥料の施用が少なかったほ場では多めに施用しましょう。なお、カリ過剰のほ場も多く見られることから、注意して実施しましょう。作物ごとの施肥量は専門部会ごとの指導会等でお示しています。

酸性土壌では放射性セシウムが吸収されやすくなるため、石灰苦土等の施用により適正なpHに調整しましょう。

### (品目ごとの適正土壌pH)

品目名	好適pH範囲	品目名	好適pH範囲	品目名	好適pH範囲	品目名	好適pH範囲
キュウリ	6.0~6.5	インゲン	6.0~6.5	レタス	6.0~6.5	ダイコン	6.0~7.0
カボチャ	6.0~6.5	エンドウ	6.0~7.0	カリフラワー	6.0~6.5	カブ	5.5~6.5
イチゴ	5.5~6.5	トウモロコシ	6.0~6.5	アスパラガス	6.0~7.0	ニンジン	5.5~6.5
スイカ	6.0~6.5	ハクサイ	6.0~6.5	タマネギ	5.5~6.5	サトイモ	6.0~6.5
ナス	6.0~6.5	キャベツ	6.0~7.0	サツマイモ	5.5~6.0		
トマト	6.0~7.0	ホウレンソウ	6.5~7.0	パレイシヨ	5.0~6.5		

## 2 作物に土を付着させない栽培

植え付けにはできるだけマルチを利用し、その後は通路へ敷わらを行うなどして、土ぼこりが立つことを防ぎましょう。収穫物は、土の上や農舎の土間に直接置かないなど、土を付着させないように注意してください。葉菜類では、ほ場で外葉等を切り取るなど、土を落としてから運んで下さい。

# 果樹

## 1 粗皮削り及び高圧動噴による樹体洗浄

粗皮の多いカキやブドウ等ではできるだけ太枝等の粗皮を削りましょう。また、高圧洗浄機を保有している方は、展葉前に樹皮の高圧洗浄を行いましょう。

## 2 適正な施肥の励行

樹種ごとの施肥基準に従ってカリ肥料を施用しましょう。例年カリ肥料の施用量が少なかった園地や砂地では、施肥基準より多めに施用しましょう。酸性土壌では放射性セシウムが吸収されやすくなるため、石灰苦土等の施用により適正なpH(通常は6~6.5)に調整しましょう。

### 3 せん定枝等の野焼き自粛

せん定枝等を焼却すると、放射性セシウムが飛散します。また、せん定枝の焼却灰は放射性セシウムが高濃度となりますので、野焼きは行わないでください。せん定枝は、できるだけチップ化して堆肥にしましょう。

## 畜産

食品中の放射性セシウム基準値の見直しに伴い、飼料中の放射性セシウム暫定許容値が見直されました。粗飼料の管理を徹底するとともに、牧草地の更新(除染)を進めましょう。

#### 1 新たな暫定許容値(飼料中に含まれることが許容される最大値)

牛・馬用	:	100 ㍈クレル/kg
豚用	:	80 ㍈クレル/kg
家きん用	:	160 ㍈クレル/kg

#### 2 牧草地の利用

平成24年産牧草については、収穫時期にモニタリング調査を実施し、利用の可否について判断することになっていますが、牧草地については、基本的に更新(除染)を行ってから利用をお願いします。

## 林産

#### 1 原木栽培

ほだ木は放射線量 50 ㍈クレル/kg 以下のものを使用してください。ただし、3月まで適用している 150 ㍈クレル/kg 以下のほだ木は、今シーズン県内のみで使用できます。

##### 原木露地栽培

ほだ場及び周辺の落葉・落枝・枯れ草を片付け、ほだ場周辺に防風ネットを設置してください。散水は水道水・井戸水を使用し、沢水を使用する場合は、放射線量を測定してから使用するようしてください。また、採取カゴ等は、直に地面に置かないように注意してください。

##### 原木ハウス栽培

ハウスの入り口に土砂落とし用マットを設置してください。また、開口部は粉塵等が入らないようネット等を設置してください。

ほだ木は直接土に触れないようにコンクリートブロックやシートを敷いて下さい。

散水は水道水・井戸水を使用し、沢水を使用する場合は、放射線量を測定してから使用するようして下さい。

#### 2 菌床栽培

菌床は放射線量 200 ㍈クレル/kg 以下のものを使用して下さい。

ハウスの入り口に土砂落とし用マットを設置して下さい。また、また、開口部は粉塵等が入らないようネット等を設置して下さい。

### 掲載情報に関する問い合わせ先

会津農林事務所会津坂下農業普及所	電話	0 2 4 2 - 8 3 - 2 1 1 2
” 金山普及所	電話	0 2 4 1 - 5 4 - 2 8 0 1
” 農村整備部	電話	0 2 4 2 - 2 9 - 5 3 3 2
” 森林林業部	電話	0 2 4 1 - 2 4 - 5 7 3 4
J A 会津みどり 総合支店営農課	電話	